

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600369
法人名	株式会社 むらかみ
事業所名	グループホーム やまと
所在地	愛媛県大洲市長浜町下須戒 1 3 番地 8 番
自己評価作成日	平成22年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員は「明るく・楽しく・穏やかに」を理念に、ご利用者の方一人ひとりの、「楽しみ」や「穏やか」を日々、思い寄せながら楽しく生活をしています。地域の方の協力や関わりにより地域行事に参加するといつでも温かい声を掛けていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

運営推進会議時、今年度は「外出支援」に力を入れて取り組み「利用者の暮らしを拡げていきたい」と発表された。事業所では、散歩コースに名前を付けておられ「いちじくパトロール」の散歩には、近くにある職員の自宅の畑のいちじくを見に出かけ、「いのししパトロール」では、少し遠くまで散歩されている。月2回、利用者の希望を聞きながら買い物に出かけたり、外出に出かける等、利用者が「楽しく」過ごせるよう計画をされている。近くの理髪店を利用される方や受診帰りに、少し遠回りをしてドライブを楽しむこともある。又、ご家族とドライブされる方もある。

季節毎に事業所で行っている「ホーム喫茶」には、地域のサロンの人達も来てくださり、一緒に歌を歌ったりケーキとお茶を楽しんでおられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム やまと

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

畑中 智子

評価完了日

22 年 10 月 10 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「明るく・楽しく・穏やかに」を理念とし勉強会や会議等の中で職員が共通の解釈をし実践できるようにしている。 (外部評価) 理念は、居間や玄関に掲示されている。理念について職員は「利用者に明るく笑顔で接することで、利用者の方達が笑顔で穏やかに暮らせる」と考え、日々実践に努めておられる。	
2	2	事業所と地域のつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・「ホーム喫茶」を季節ごとに開き民生委員の方を中心に近所の方との交流している。 ・小学生の総合学習の時間や行事の参加にて交流を深めている ・自治会に入り地区の行事等も声をかけていただきグループホームの活動に理解・協力を頂いている。 (外部評価) 日々の散歩等で地域の方達とも顔見知りになり、地域の方のほうから声をかけてくださることも増えたようである。小学校の運動会には、地域の方達が利用者の見学席を準備して下さり、一緒に見学されたり、季節毎に事業所で行っている「ホーム喫茶」には、地域のサロンの人達も来て下さり、一緒に歌を歌ったりケーキとお茶を楽しんでおられる。地域のお祭時には、獅子舞や牛鬼・子供みこしが事業所を訪れてくれている。中学校の人権学習の一環で2名の中学生が体験学習に来られ、認知症サポーターのオレンジリングを着けて訪問してくれた。管理者は「地域の人達から認知症についてや、介護について相談が受けられるようになりたい」と思っておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・ホームに気軽に入室して頂ける機会を作り活動や認知症の理解に繋がるようにしている。 ・小学生には「認知症」「介護の仕事」「グループホーム」について話している。 ・入所等に関係なく認知症の介護について相談を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進委員の方の構成は民生委員・公民館長・小学 校の校長先生・お向かいさん等で構成されており地域 の行事情報等を交換し地域行事に参加する機会を増や していただいている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>事業所は、運営推進会議を「ホームを知ってもらふ会 議」と捉えて取り組みをすすめておられる。会議時 には「夜間想定避難訓練」を行ったり、外部評価結果 の報告、21年度の活動を振り返り、今年度、力を入れ て取り組みたいこと等を発表された。玄関には椅子と テーブル、ソファが設置されており、運営推進会議 の議事録や外部評価結果表が置かれていた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の担当者の方、地域包括支援センターの方が運営推 進会議に必ず出席して頂いているので相談がし易い。 又市が開催する会議、研修についても積極的に参加す るようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時、市の担当者の方が、市内の要介護認 定者数、21年度の給付額やグループホームの待機者数 等を報告してくださった。毎月、介護相談員の訪問が あり、利用者の話を聞いてくださっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>職員全体に対し「身体拘束」をテーマに勉強会を行 い、理解を深めている。また介護技術の向上や知識が 豊富になることが今後も身体拘束をしないケアに繋がる と考えている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>グループホーム連絡協議会が開催する職員研修に参加 し「身体拘束をしないケア」について勉強をされ、実 践に取り組んでおられる。管理者は「高齢者虐待防止 教育システム」を用いて、毎月少しずつ勉強できるよ う取り組まれている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会の参加や勉強会にて知識を得る機会は設けている。又実際の場面で職員間で意識し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際には活用した事は無く、今の段階では必要は無いが、研修会に参加する事でいつでも相談できる機関について確認をしたり、家族の方や利用者ご本人にとっても安心して生活が出来るようにしている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 希望があれば施設見学時や入居前の面談や契約時となるべく複数回にわたり説明をする機会は設けている。又充分に契約書の内容を見ていただけるように時間をかけている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 個別の希望は面会時に聴き取り、できるだけ家族、ご本人の希望に添えるようケア会議や職員会議の中で検討している。又介護相談員さんの訪問等にて第三者への意見意向を示せる機会がある。	
			(外部評価) 玄関には、利用者と担当職員が写っている写真を掲示し、職員の顔と名前がご家族にわかるようにされている。毎月「やまと便り」を発行し、3ヶ月毎に担当職員が日々の暮らしぶりや、事業所の取り組みについて手紙を出しておられる。ご家族の来訪時には日々の様子を伝え、要望等がないか聞き取っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回の職員会議の中で、意見提案がある時は検討している。必要に応じケア会議の中でも意見提案があるか確認したりしている。職員と個別面談を行い今後の事なども含め意向を確認している。	
			(外部評価) 管理者は、職員によく声をかけるようにされており、職員も管理者に相談しながら取り組まれている。管理者は、年1回、職員と個別面談を行い、運営に対しての意見や、取り組んでみたいこと・ケアの相談等を聞いておられる。職員から食事介助がしやすいようにテーブルの配置替えについての提案があり、話し合いながら替えておられ「とても介助がしやすくなった」と管理者は話しておられた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の「やる気」や「良いホームにしたい」という思いが先行しており、そのことで少しずつ働きやすい環境になっているように思われる。就業時間等の条件の整備に関しても職員の意見を元に検討している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会の参加や、勉強会は年間計画をたて、個人目標や、役割が達成できるようにしている。ケアについての相談も出来る限り対応している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 外部研修の参加にて機会を作っている。又実習の受け入れにて情報交換や、刺激を受けている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談にて入居に至るまでの本人・家族の心配や不安を確認したり受け入れの準備にて解消したりしている。更に家族の方からのこれまでの生活についてできるだけ多くの情報が得られ入居後の生活が早くに落ち着くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族関係や介護の内容、入居に至るまでの家族の気持ちを踏まえ、家族が認知症を理解し家族の関係が保たれることを念頭に関わりをしている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居にあたりまずは担当のケアマネージャーさんと検討していただいている。家族、ご本人が直接入居申し込みをされた場合には、時間が許す限り認知症介護や、制度利用等の必要な助言はさせていただいている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 季節の食材の調理の仕方や、郷土料理、味付けなど利用者の方に教えてもらいながら季節感を味わっている。個人の昔話、子育ての話、地域の慣わしなども教えて頂いているので地域行事にも気軽に参加しやすい。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームに入居していても介護を職員と一緒にしている感じを持っていただきたいと考えている。認知症の進行による症状の変化などを家族の方に受け入れていただきながら家族の方でしか出来ない介護を遂行できるように支援している	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域行事に参加する事で馴染みの方と再会したり、在宅時からの主治医を引き続きかかっているため、病院の待合でもよく声をかけていただく。今後も、外出の機会を増やしたり、手紙などの交換も支援していきたい。 (外部評価) 息子さんから巻紙に筆で書いた手紙が届く利用者があり、ご本人も時にはお返事を出されるようだ。買い物に出かけた際、実家の近くのしょうぶ園を見て帰ることもある。「ホーム喫茶」に顔見知りの方が来られることもあり、その際には、席をとなりにして、おしゃべりが弾むように配慮されている。自宅が近くにある利用者は、散歩時に、ご自宅の庭の花や近くにある職員の自宅の畑のいちじくの成長を見て楽しまれている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者の方向士合う合わないはあるが、レクレーションなどは全員が参加出来る様にゲームの内容を工夫したり、席順なども配慮したりしている。普段でも雑談の中で言葉の誤解が無い様に職員が仲介したり、そっと見守ったりしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、家族・ご本人の要望があれば相談や入居時の状態やケアの内容を情報提供できるようにしている。	
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話や様子からご本人の意向や思いを汲み取り記録に残し、できる限り実現できるように、ケアカンファレンスなどの時に職員全員でアイデアを出し合ったり工夫をしている。	
			(外部評価) 利用者の日々発する言葉や「家に帰りたい」等の希望を介護記録に記録して、一人ひとりの暮らし方の希望や意向を把握されている。センター方式を活用し、以前の生活ぶりや習慣・好きなこと・得意なこと等も把握されている。ご家族からも情報を得るようにされている。又、ご本人の意向を把握しにくい方には、表情や仕草等からも汲み取るようにされている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式のアセスメントを利用し、家族・知人から、これまでの生活ぶりなど情報を頂いたりして把握している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別の記録や日々の「活動表」の記入により状況が分かり易いようにしている。又2ヶ月ごとの記録のまとめや半年毎のアセスメントの更新を行って把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアプランに対する本人家族の意向は更新の前に聞き取りをしている。出されたアイデアや提案については職員全員で検討している。家族の方にはプランを説明する事により必要な協力は得ている。</p> <p>(外部評価) ご家族にご本人の状態を詳しく伝えて、ご家族の意向を聞きながら「どうしたら本人らしく暮らし続けられるか」一緒に考えるようにされている。計画は3ヶ月毎に見直しをされているが、状態変化時にはその都度、現状に即した介護計画を作成されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護記録の記入の仕方や観察の視点についても意識しながら残している。2ヶ月ごとに記録を振り返り状態の変化などを確認しながらケアプランの実施を行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ホームが窓口になり関係機関との連絡調整を行っている。 ボランティアさんが多く関わって頂くことでホーム独自の活動が幅広く柔軟に取り組めると考えている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 民生委員の方が協力的なので安心して活動が出来ている。 (散歩時の挨拶、避難訓練の参加、サロン活動からの同年代の交流など。)</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価) 在宅時からの主治医に引き続き受診している。 日常生活ぶりや状況の変化等報告したり、主治医から直 接健康管理についての助言をいただけるので、職員が必ず 同行している。家族のみの受診でも状況が分かるように情報 提供している。</p> <p>(外部評価) 協力医に、日々のご本人の様子を詳細に伝え、ご本人が服 用している薬についても相談しながら調整して、血圧の状態 が良くなってきている利用者がおられた。ほとんどの利用者 は、以前からかかっている総合病院を受診されている。現在 は、管理者が受診同行をされることが多い。月1回、協力医 の往診を受けておられ、血圧や食欲不振等、気になること等 を相談されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診 や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 受診時に必ず同行しているので必要な情報は伝えている。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう に、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。ま たは、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価) 受診も出来るだけ固定した職員が同行している。医療 機関のソーシャルワーカーの方や看護師の方主治医の 先生にホームの状況やご利用者の意向、家族の考え方 が出来ただけ伝えるようにしている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所の意向確認の際から今の段階での考え方などを聴き 取っている。終末期におけるホームの出来る事できない事な どを説明してから再度ホーム利用の意向を確認している。 本人・家族の意向はカンファレンス時にスタッフに伝え大まか な方向性や、準備などをしている</p> <p>(外部評価) 入居時、重度化や終末期について事業所でできること・でき ないことを説明し、ご本人ご家族の意向を聞くようにされてい る。重度化した場合には、主治医とご家族とも話し合い、必 要に応じ協力医の助言を受けつつ、「往診で対応するか入 院すべきか」検討するようになっている。現在は「なるべく ホームで過ごしたい」と希望している利用者・ご家族がいる。 状態変化時には、その都度話し合うようにされている。</p>	<p>事業所で「どこまで支援できるか」職員と話し合い、意識を統 一していきたいと管理者は話しておられた。今後、利用者の 重度化や終末期の支援について、医療との連携やご家族と の協力、職員の力量アップ等を図りながら、最期までご本人 らしく暮らせるよう支えていかれてほしい。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 応急手当の研修は順次参加している。参加した職員の報告等で知識の共有を少しでもできるようにしている。 緊急時対応はマニュアルを確認しながら行っている。救急搬送の事例などを振り返り確認している。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・地震、火災を想定(昼夜)し実際の動きを確認している。 消防署員の立会いもあり適切な助言を頂いている。 ・お隣さんの協力で実際の避難訓練を見ていただいたりホームの状況を確認していただいている。 ・運営推進会議の話題に定期的にのぼるようにし地域の方の意識や協力体制の確認をしている。 (外部評価) 居間には大きい避難経路図を貼っておられた。利用者を避難させる時に、分かりやすいよう利用者個々の居室には、2階の利用者2名は「ベランダへ」、1階の利用者は「掃き出し窓から屋外へ」と書いて貼っておられた。今年度中には、スプリンクラーを設置するよう計画されている。地域の避難訓練に利用者や職員で参加された。職員は「夜間の災害時、落ちていて2階の利用者の誘導が出来るようにしていきたい」又、災害時にはエレベーターが使えないので「階段を使って利用者を安全に誘導できるよう身に付けていきたい」と話しておられた。	今後、事業所では「地区の消防団と共に訓練を行いたい」と考えておられた。運営推進会議時ご家族から「夜間の火災が心配」との声もあったようで、今後もさらに、いろいろな災害を想定した訓練を重ねていかれてほしい。安全や安心への取り組みについては、ご家族も一緒に取り組まれたり、報告等もされてほしい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉遣いはもちろん、声の大きさ抑揚、仕草も含め気をつけているが、まだまだ状況に即した声かけは充分に行えていないと思う。ご本人が不愉快な事がないように言葉かけの後ご本人の表情や行動には気をつけている。 (外部評価) 長時間おしゃべりされる利用者に職員は、ご本人の言葉に相づちを打ちながら聞いておられた。ご家族や友人等の面会時には、他の利用者の方達に気兼ねせず、ゆっくりしてもらえよう声をかけておられる。昼食後、ソファで過ごす人、新聞を読む人、お部屋で横になる人など、一人ひとりを尊重されていた。「ホームに仕事に来ている」と思っている利用者は、ご自分の居室に荷物をまとめておられるが、ご本人の思っていることを大切にされて、ご本人に作業を手伝っていただいたり、家事等ができるよう支援されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の変化や最近の状況を確認しながら、ご利用者の希望や思いを職員が推し量って声かけてみたり、時間をかけて待つ事でご本人の意向が伝わるので余裕を持って関わっている。 選択肢を配慮して「選択する」機会を多くしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限りご本人のペースが保てるように時間配分は臨機応変に変えている。又職員間でその日の役割の交代などもして対応している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時など特別な日の装いはスカーフやアクセサリ、帽子など季節を配慮しながら、ご本人が身に着けて笑顔になるものを一緒に選んだりしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 外食、行事食、野外食など季節感を取り入れ食事を楽しくする機会を持っている。 ご利用者と職員が協力して食事を作っている。台所仕事は役割が固定しつつあるので役割が追行できるように支援している。 (外部評価) 調査訪問時、利用者は、あえ物に使うにんじんを切ったり、食後の片付けや下膳、食器を洗う等、個々ができることをされていた。職員は、利用者と同じものを一緒に食べながら、食べやすいように食器を置き換えたり、メニューの説明をされていた。その人の嚥下の状態に応じて一口の量を考えて、声をかけてから食事介助をされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事量、水分量が分かるように記録にも工夫している。又食事介助しながらも状態の観察を行い注意を払っている。食事療法が必要な方などは医師、栄養士の助言にて食事の形態味付けなどにも工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後ではないが朝・夕は歯磨き、入れ歯洗浄、うがいを促したり、介助している。又食事後水分をしっかり摂る事で口腔内に食物が残らないように気をつけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価)</p> <p>尿便意の有無を確認し、排泄の間隔、場所の誘導、声かけの仕方に気をつけオムツの使用を減らしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>管理者は「最後まで機能がある限りトイレでの排泄を支援していきたい」と話されていた。尿意のある方は、トイレで排泄できるよう支援されている。入居時、おむつを使用していた方も、排泄サインを確認しながら、現在では布パンツとパットを利用するまでに改善された利用者もいる。</p>	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>口腔内の状態や体調により消化のよいもにしたり水分量も確認しながら自然排便があるように誘導している。排泄時の姿勢にも気をつけ『力む』事が出来るように介助している。</p>	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の午後に時間は決めてはいないが入浴をして頂いている。夕食前の時間がよいようです。今までの習慣などにも配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>現在は、午後2時～5時頃に入浴することを希望される利用者が多く、職員は、利用者の様子を見ながら声掛けを行い、一人ずつ入浴できるよう支援されている。車いすを利用されている方は、浴槽の出入り時のみ職員2名で介助をされている。浴室のドアには「入っています」又、「出ましたよ、どうぞ」と書かれたカードを掛けて、個々がゆっくりと入浴できるように工夫をされている。調査訪問時、職員がお風呂へお誘いした時「私お風呂はいやよ」と言いながら、服のぼたんをはずしつつ歩いて、浴室に行かれる利用者の様子が見られた。</p>	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価)</p> <p>光、音、室温などにも注意を払いなるべく眠りやすい環境を作っている。畳のスペースも有効に使い「ちょっと横になりたい」とときには自由に休んでいただいている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 「薬説明書」ファイルを作り病院薬局から頂く説明書を個別に綴っている。薬の変更時は個別の介護記録にも記載し医師や薬剤師さんからの助言をもとに状態の観察をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 役割が定着すると次第にご本人のやる気が増し自発性が出てきた。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出行事も増えてきたが日々の散歩にて気分転換を図ったり地域の方と挨拶を交わす事で地域になじんできている。 小学校、保育所の行事にも参加させてもらい散歩がてら出かけることが多くなってきた。	
			(外部評価) 運営推進会議時、今年度は「外出支援」に力を入れて取り組み「利用者の暮らしを拡げていきたい」と発表された。事業所では、散歩コースに名前を付けておられ「いちじくパトロール」の散歩には、近くにある職員の自宅の畑のいちじくを見に出かけ、「いのししパトロール」では、少し遠くまで散歩されている。月2回、利用者の希望を聞きながら買い物に出かけたり、外食に出かける等、利用者が「楽しく」過ごせるよう計画をされている。近くの理髪店を利用される方や受診帰りに、少し遠回りをしてドライブを楽しむこともある。又、ご家族とドライブされる方もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 家族、ご本人の了解のもとご本人で自由に管理されている方もいる。日用品の買い物なども出来るだけ本人が自分でお金を支払う事を援助している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族の方が準備していただき、自筆の手紙がやり取りできるように支援している。電話の声は聴き取りにくいようすぐに職員に変わって聴いてもらう場面が多いです。年賀状などで挨拶が出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ご利用者の状態によりテーブルなどの配置変えている。テレビは点けばなしにせず静かな雰囲気を作っている。畑の花や散歩に出かけて野の花を摘んでは活けている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>2階の居間には、行事の写真や「やまと便り」・小学生からの手紙が掲示されており、もみじの飾りや利用者の塗り絵の作品等が飾られていた。利用者が思い思いに過ごせるようにソファがあり、調査訪問時には、置のコーナーで利用者が横になって過ごしておられた。窓から小学校の様子が見え、近くの保育所の散歩ルートになっているので、子どもたちの声も聞こえてくる。山や田畑も眺められる。1階から2階にかけて吹き抜けになっており、天窗から自然の光が入るようになっている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホーム内の何箇所かソファ、椅子を置き「ちょっと一休み」が出来るように配置している。一人で考えたり、家族との面会などは居室（個室）を使っている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に買い揃えるのではなく今あるものをと声かけているが、家族も共有している家具も多く思うように揃わないことのほうが多い。出来るだけ家族の写真を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ベットを利用しておられる方や、畳で生活される方等、利用者の以前の暮らしに沿って支援されている。使い慣れたタンスや椅子、鏡台、時計、本、ひ孫さんやご家族が来られた時に撮った写真等も飾られていた。宮付きタンスには、大切にされてきた人形や、母親の写真を飾っておられた。又、老人車やお気に入りのネックレス、ブローチ、スカーフがいつでも使えるように置かれていた。敬老の日に職員から贈られた「感謝状」には「お手伝いをして職員を助けてくれてありがとう」「いつもみんなを楽しくしてくれてありがとう」等、日頃の感謝の言葉が書いてあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>ケアカンファレンスではまずどうしたら自分で出来るかのアイデアを出し合っている。出されたアイデアは手作りで調整したりしている。</p>	